

臨床心理室

業務内容

心理アセスメント・心理療法・ガイダンス・心理コンサルテーション・緩和的心理療法・地域連携・援助・講演 など

【体制】

公認心理師・臨床心理士 1名

業務実績

新規心理面談件数 191件

延べ心理面談件数 1,876件

その他の活動

【依頼講演】

松本 準：鎌倉市立第一小学校PTA会員委員会
「コロナ禍における心のケア」

展望/抱負

2021年度コロナ禍を経過する中、臨床心理室では心理アセスメント・心理検査・心理療法・ガイダンス・地域支援などの日常臨床からメンタルヘルスケアまでを工夫を凝らして継続していきました。当然、身体疾患を主とした方々への緩和的な心理支援も実施してきました。心理面談件数は毎年増加傾向にありましたが、社会構造が変化していく中で質的な変化もみられております。リモートワークを背景とした気分状態の問題なども多くなってきていることから、支援の中心として生活環境へのアプローチや工夫を共に検討してくやり取りが増えてきていることも特徴的な年度となりました。また、身体症状を伴った心理的問題としての登校不全の小児患者も増加傾向にあり、その理解と対応も大きなテーマとなった一年となりました。その中で、多くの診療科や診療支援部とのつながり、および地域の施設の方々との連携を通してより全人的な理解と支援へと向かっていく文脈を形成できていたことは、支援の質的な向上につながったのではないかと考えております。

様々な環境の変化がありながらも臨床心理室では一定の水準を保ちながら心理支援を継続することができており、これは多くの方々のご協力とご支援の賜物とであると考え、感謝申し上げる次第です。

今後は多くの診療科での患者の増加が見込まれ、それに伴う心理的支援の要請も増えていくことが考えられます。上述した小児科だけでなく、身体疾患を伴った成人患者の心理的問題も対人関係などの環境の多様化から増加しており、予防的アプローチも含めた様々な支援が期待されています。社会復帰への支援もその一つです。また移植医療の発展もあり、その中で心理的サポートの重要性も明らかにされてきています。

要請の増加に対しても丁寧な支援を行っていくこと、また多様化し質的な変化を伴う問題に対してこれまでの知見と最新の知見を融合しながら、より適切な支援へとつなげるための自己研鑽に努めていく所存です。それらが適応の改善などの治療効果に反映されていくことが目標です。